

# OSSのECMソフトウェア「Alfresco」

## —高度な機能と多様なコラボレーション—

昨今、ECM（エンタープライズコンテンツマネジメント）ソフトウェアを用いて、企業が  
多く保有する構造化されていないデータを管理できるようにする取り組みが多く見られる。  
本稿では、ECMソフトウェアの概要と、オープンソースソフトウェア（OSS）で利用例の多  
い「Alfresco」（アルフレスコ）について解説する。

### 高度化するECMソフトウェアへの要求

ECMは、企業が保有している構造化され  
ていないデータや文書を収集・管理・蓄積・  
保護・配布するための技術、ツール、手法で  
ある。また、ECMソフトウェアに求められる  
基本機能は情報の「記録・蓄積」「管理」「検  
索」「配布」の4つである。

近年では、データや文書の記録・蓄積のあ  
り方が、品質管理およびそのための業務のチ  
ェックプロセスの増加という観点から重要に  
なっており、スマートデバイスやクラウドサ  
ービスなどの新しい技術の登場によって、従  
来にないタイミングや方法での記録・蓄積  
も必要になってきている。また、企業にとっ  
ては、蓄積されたデータ・文書を活用するた  
めのコラボレーション（協同作業）も重要  
な課題となっている。このような背景から、  
ECMソフトウェアには、より高度な機能が  
求められるようになっていく。

### オープンソースのECMソフトウェア

ECMソフトウェアにもOSSが利用される  
ようになっていく。よく知られているのが、  
Alfresco Software社の「Alfresco」である。

Alfresco Software社は、代表的なコンテンツ  
管理ソリューションの1つ「Documentum」  
の開発元であるDocumentum社（現EMC  
社）の共同創立者の1人で、コンテンツ管理  
ソフトウェアの分野で大きな影響力を持つと  
いわれるJohn Newtonが2005年に設立した会  
社である。

「Alfresco」は豊富な機能を持ち、可用  
性、拡張性に優れたECMソフトウェアであ  
り、欧州司法裁判所、英国国防省、NASA  
（米国航空宇宙局）などの欧米の公的機関  
のほか、日本の野村證券、シグマックスを  
含む世界の3千社以上の企業で採用されて  
いる。「Alfresco」は、米国国防総省が定  
め、国立公文書館記録管理局（NARA）な  
ど米国の政府機関が推奨する文書管理の基準  
「DoD5015.2」を取得している唯一のOSSで  
もある。当然、NARAのガイドラインであ  
る「機密指定」「アクセス制限」「機密解除」  
などの基準をクリアしている。

「Alfresco」は基本的なECM機能を持つほ  
か、次のような特徴を持っている。

#### ①低コスト

ライセンス費用が不要で、CPU（中央演  
算処理装置）単位の「年間サポート＋使用



権」を購入するだけで使用できる。

## ②クラウド連携

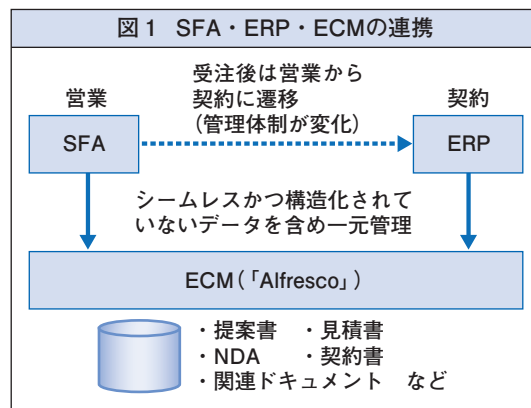
クラウドサービスを介して外部や企業間の連携が可能である。VPN（仮想プライベートネットワーク）のような特別な工事をしなくても、クラウドコンテンツ管理ソフトウェア「Alfresco in the Cloud」上でコンテンツを同期させることで、企業や組織間でワークフローや情報の共有を実現できる。

## ③スマートデバイス連携

スマートフォンなどのOS（基本ソフト）であるiOSやAndroid用の「Alfresco」アプリケーションを利用して、スマートデバイスから「Alfresco」のコンテンツの閲覧やワークフローの利用ができる。

## ④多様なコラボレーション

CIFS（Common Internet File SystemやWebDAV（Web-based Distributed Authoring and Versioning）といったプロトコルに対応し、一般的なファイル共有のほかネットワークを介したファイル共有・管理も可能である。また、SAP社のERP（統合基幹業務システム）、Salesforce.com社のSFA（営業支援システム）やCRM（顧客関係管理システム）、Microsoft社の「SharePoint」（ドキュメント管理プラットフォーム）、「LotusNotes/Domino」（コラボレーションプラットフォーム）、FacebookやTwitterなどのSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、Amazon S3（クラウドストレージサービス）



などとの多様な連携が可能である。

カスタマイズが容易というOSSの特長を生かし、「Alfresco」をカスタマイズして、従来は個別に保存していた各業務のドキュメントに対して、SFAやERPなどと関連を付けて一元管理するといった利用方法も広がってきている（図1参照）。

## 「Alfresco」は有力な選択肢

昨今、スマートデバイスの業務利用やBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）の進展に見られるように、ワークスタイルの変化が進んでいる。そうしたなかで、構造化されたデータと構造化されていないデータとの連携や、文書管理のISO規格（ISO 9001、ISO 14001）の改定（2015年に予定）への対応など、文書管理をめぐるさまざまな課題も出てくる。野村総合研究所（NRI）はこれまでさまざまな文書管理システムの構築経験を持つが、顧客のニーズによっては「Alfresco」は有力な選択肢の1つと考えている。 ■